

異年齢集団における幼児の社会的適応

一月齢, 語彙, 社会的行動特徴, 攻撃タイプ

越中康治・中村多見・前田健一

Preschoolers' social adjustment in a mixed-age group:
Age, vocabulary, characteristics of social behavior, and types of aggression

Koji Etchu, Tami Nakamura, and Kenichi Maeda

本研究では, 異年齢集団における幼児の社会的適応に影響を及ぼす諸要因(月齢, 語彙, 社会的行動特徴, 攻撃タイプ)について検討を行った。主な結果を以下に記す。女児では, 月齢が低く語彙が不足している者ほど, 社会的行動特徴に関して, 仲間から社会的コンピタンスが不足しており, 攻撃性が高いと評定され, 社会的適応に関しても, 仲間から拒否されやすく, 受容されにくかった。一方, 男児では, 月齢の低い者は, 社会的行動特徴に関して月齢の高い者との違いは認められなかったにもかかわらず, 仲間から受容されにくかった。また, 攻撃タイプに関して, 男児では, 月齢の高い者が報復的攻撃を示すことが多いが, 必ずしも仲間拒否につながらないこと, 制裁としての攻撃は, 敵味方の多い男児の行動特徴である可能性が示唆された。一方, 女児では, 挑発的攻撃及び報復的攻撃が, 幼く言語能力や社会的行動に未熟な面のある者に認められる攻撃タイプであるのに対して, 制裁としての攻撃は, 仲間から受容されている者に認められる攻撃タイプである可能性が示唆された。異年齢保育においては, 低年齢児(特に女児)の社会的適応に配慮する必要がある。

キーワード: 幼児, 異年齢集団, 社会的適応, 語彙, 攻撃タイプ

問題と目的

これまで, 幼児の社会的適応状態に関しては, ソシオメトリック地位や仲間からの受容度を指標として研究が進められてきた。ソシオメトリック地位と社会的スキルなどの行動的側面(前田・片岡, 1993)や孤独感などの認知・感情的側面(前田, 1995)との関連が明らかにされており, 既に一定の研究成果が蓄積されている。しかしながら, これまでの幼児の社会的適応に関する研究は, そのほとんどが同年齢集団を対象としてなされており, 異年齢保育の集団を対象としてこなかった。

異年齢保育とは, 異年齢の子どもたちを1つのグループとして活動を展開させることを目的とした保育形態である(田代, 2000)。少子化傾向に伴い, 幼稚園・保育所において同年齢編成を維持することが困難となってきたため, 必然的に異年齢編成を行うととらえる向きもある。しかしながら,

異年齢保育は、兄弟姉妹が少なくなったり、地域の子も同士のかわりが少なくなっている現代において、幼児の社会性を育む上での、より積極的な役割が期待されている（田代, 2000）。こうした利点が強調される一方で、異年齢保育においては、集団内でどのようなかわりが生じているのか、一人ひとりの子どもを丁寧にみていくことの必要性が指摘されている（田代, 2000）。

仲間集団への適応に関しては、特に月齢の低い幼児に対する配慮が必要となるものと考えられる。幼児が仲間から受容されるには、適切な社会的スキルを実行する必要がある（前田・片岡, 1993）。しかしながら、社会的スキルは仲間関係の中で習得されるものである（前田・片岡, 1993）。月齢の低い幼児は集団生活の経験が浅く、月齢の高い幼児に比して、スキルが不足している傾向にあるものと予想される。また、社会的スキルは言語的側面を多分に含んでいることから（相川, 1999）、言語の発達が初期の段階にある低年齢児ほど実行に困難を示すものと予想される。さらに、言語の発達が初期の段階にある低年齢児は、怒りや不満の感情を攻撃行動によって表出する場合も考えられる（後藤, 1998）。以上のことから、異年齢集団において、低年齢児は、発達初期の段階にあるが故に、社会的行動に未熟な面があり、仲間集団への適応に困難を示す傾向にあるものと予想される。

本研究の第1の目的は、これらの予想を検証することを通して、異年齢集団における幼児の社会的適応に影響を及ぼす諸要因を明らかにすることである。なお、本研究では、写真ソシオメトリック指名法（前田・片岡, 1993）の結果から算出される、肯定的指名得点、否定的指名得点、好意性得点、影響性得点を、社会的適応状態の指標とする。幼児の社会的行動特徴をとらえる上では、攻撃性、社会的コンピタンス、引っ込み思案に関して仲間指名を求める写真仲間アセスメント（前田・片岡, 1993）を実施する。さらに、絵画語い発達検査〔1991年修正版〕（上野・撫尾・飯長, 1991a）によって求められる幼児の語い年齢（以下、語彙年齢と表記する）を、言語能力の指標とする。予想される結果は以下の通りである。①月齢及び語彙年齢の低い幼児は、仲間から、社会的コンピタンスが不足しており、攻撃性が高く、引っ込み思案であると評定される。②それ故、仲間から、否定的指名を受けやすく、肯定的指名を受けにくい。

本研究の第2の目的は、幼児が示す攻撃のタイプによって、仲間から受ける評価に違いがあるのかを明らかにすることである。これまでの攻撃行動と仲間関係との関連について検討した研究では、基本的に、攻撃行動を示すことが仲間から拒否される原因の一つであるとされてきた（Coie & Kupersmidt, 1983; Dodge, 1983）。しかしながら、攻撃行動も、タイプによっては、必ずしも仲間からの拒否につながらない可能性が示唆されている（Lesser, 1959; 前田・片岡, 1993）。

Lesser (1959) は、児童を対象とした研究で、挑発的攻撃（自ら仕掛ける攻撃）を示すと仲間から拒否されるが、報復的攻撃（仕返しのための攻撃）であれば仲間はその必要性を認め、むしろ仲間から受容される可能性を示唆している。また、幼児を対象とした研究においても、前田・片岡(1993)が、仲間から積極的に好かれている幼児（典型的には、ある仲間からは人気があるが、他の仲間からは拒否されている幼児）の中にも攻撃性を示す者が含まれている可能性を示唆し、攻撃性の量的相違だけでなく、挑発的攻撃、報復的攻撃といった攻撃の質的相違に注目していく必要性を指摘している。さらに、越中（投稿中）は、挑発的攻撃及び報復的攻撃に、制裁としての攻撃（直接被害を受けていない第三者が、不当なことをした人に対して加える攻撃）を加えて、各タイプの攻撃行

動を示す主人公を、幼児がどの程度受容できると判断するかを実験的に比較検討している。結果として、幼児は、挑発的攻撃を示す主人公を明らかに拒否する一方で、報復的攻撃及び制裁としての攻撃を示した主人公をある程度受容する傾向にあった。

以上を踏まえ、本研究では、攻撃性に関する写真仲間アセスメントに加えて、挑発、報復、制裁の各タイプの攻撃を示す幼児の指名も求め、仲間から受ける評価との関連を検討する。予想される結果は以下の通りである。挑発的攻撃は仲間からの否定的な評価につながりやすく、報復的攻撃及び制裁としての攻撃は必ずしも否定的な評価につながらない。

方 法

対象者

第1著者が保育士として勤務する、東広島市内の保育園の異年齢クラスに所属する幼児26名(男児13名、女児13名)を対象とした。平均月齢と月齢範囲は、男児が54ヶ月(44ヶ月～64ヶ月)、女児が50ヶ月(43ヶ月～66ヶ月)であった。

調査時期

2003年9月中旬から下旬にかけて実施した。

手続き

「写真ソシオメトリック指名法」と「写真仲間アセスメント」、「絵画語り発達検査」と「攻撃タイプに関する仲間アセスメント」をセットにして、それぞれ別の日に個別面接で実施した。

(1)写真ソシオメトリック指名法

前田・片岡(1993)に従って、写真ソシオメトリック指名法を実施した。同性仲間全員の写真カードを机上に配列し、名前を確認させた後、肯定的指名(一緒に遊びたい子は誰ですか)及び否定的指名(一緒に遊びたくない子は誰ですか)をそれぞれ上位3名まで求めた。

なお、前田(1998)は、否定的指名が実施後の仲間関係に有害な影響を及ぼさないとしながらも、実施に際しては、倫理的・道徳的問題を十分に考慮することの必要性を指摘している。本研究においても、実施に際して、前田(1998)に従い、可能な限りの配慮を行った。なお、実施後も、第1著者が担任保育士として、幼児の様子に細心の注意を払ったが、幼児の仲間関係等にトラブルは生じなかったことを付け加えておく。

(2)社会的行動特徴に関する仲間アセスメント

前田・片岡(1993)に従って、写真ソシオメトリック指名法と同様に、攻撃性(「よくけんかをする子」「自分の思いどおりにならないと、すぐに怒る子」「お友達によく命令する子」)、社会的コンピタンス(「みんなと仲良く遊ぶのが上手な子」「お友達に親切でやさしい子」「みんなから人気がある子」)、引っ込み思案(「お友達にあまり話しかけない子」「おとなしい子」「お友達とあまり遊ばない子」)の各3項目について、該当すると思う仲間をそれぞれ上位3名まで指名するよう求めた。

(3)絵画語り発達検査

上野・撫尾・飯長(1991a)の、絵画語り発達検査〔1991年修正版〕を実施した。

(4)攻撃タイプに関する仲間アセスメント

挑発的攻撃（「何も悪いことをしていないお友達に意地悪する子」）、報復的攻撃（「お友達に意地悪されたときに怒る子」）、制裁としての攻撃（「他の子に意地悪するお友達のことを怒る子」）の各1項目について、該当すると思う仲間をそれぞれ上位3名まで指名するよう求めた。

得点化の方法

本研究が1つの異年齢クラスを対象としたこと、対象とした異年齢クラスの男女の人数が同じであったこと、さらには男女別に分析を行ったことから、仲間一人当たりの指名数の算出及び標準得点化は行わなかった。

(1)写真ソシオメトリック指名法

中台・金山・前田（2002）に従い、対象児ごとに仲間から受けた肯定的指名数と否定的指名数を集計し、それぞれ肯定的指名得点、否定的指名得点とした。さらに、この2つの得点から、好意性得点（肯定的指名数－否定的指名数）及び影響性得点（肯定的指名数＋否定的指名数）を算出した。

(2)社会的行動特徴に関する仲間アセスメント

各項目別に、対象児が仲間から指名された数を集計し、各尺度ごとに得点を合計して、攻撃性得点、社会的コンピタンス得点、引っ込み思案得点とした。点数が高いほど、各行動特徴を強く示すことを意味する。

(3)絵画語い発達検査

上野・撫尾・飯長（1991b）の、絵画語い発達検査手引〔1991年修正版〕に従って、検査結果を語彙年齢（個人の語彙理解力がどのくらいの年齢水準にあるかを示す指標）に換算した。

(4)攻撃タイプに関する仲間アセスメント

各項目別に、対象児が仲間から指名された数を集計し、挑発的攻撃得点、報復的攻撃得点、制裁としての攻撃得点とした。点数が高いほど、各攻撃行動を示すことが多いことを意味する。

結 果

月齢群間の比較

調査実施時の月齢に基づいて、対象児を男女ごとに、月齢高群（48ヶ月以上）と月齢低群（48ヶ月未満）に分けた。「写真ソシオメトリック指名法」、「写真仲間アセスメント」、「攻撃タイプに関する仲間アセスメント」の各測度について月齢群ごとの平均値及び群間差の t 検定の結果をTable 1に示す。

社会的適応（写真ソシオメトリック指名法の結果）について、 t 検定の結果から、以下のことが明らかとなった。男女ともに、月齢高群が月齢低群に比して、肯定的指名得点が有意に高かった。男児では、月齢高群が月齢低群に比して、好意性得点が高い傾向にあった。女児では、月齢高群が月齢低群に比して、好意性得点及び影響性得点が有意に高かった。

社会的行動特徴（写真仲間アセスメントの結果）について、 t 検定の結果から、以下のことが明らかとなった。男児では、月齢高群と月齢低群との間で、攻撃性得点、社会的コンピタンス得点、引っ込み思案得点のいずれについても有意差は認められなかった。一方、女児では、月齢高群が月

年齢低群に比して、社会的コンピタンス得点が有意に高く、攻撃性得点及び引っ込み思案得点が低い傾向にあった。

攻撃タイプ（攻撃タイプに関する仲間アセスメントの結果）について、*t* 検定の結果から、以下のことが明らかとなった。男児では、月齢高群が月齢低群に比して、報復的攻撃得点が有意に高かった。逆に、女児では、月齢低群が月齢高群に比して、報復的攻撃得点が高い傾向にあった。

Table 1 各得点の平均値（標準偏差）及び月齢群間差の*t*検定の結果

	男児			女児		
	月齢高群 (<i>n</i> =8)	月齢低群 (<i>n</i> =5)	<i>t</i> 値	月齢高群 (<i>n</i> =7)	月齢低群 (<i>n</i> =6)	<i>t</i> 値
肯定的指名得点	3.63 (1.69)	1.40 (1.34)	2.49 *	4.29 (1.60)	1.50 (0.84)	4.00 **
否定的指名得点	1.63 (2.26)	3.00 (2.12)	-1.09	2.00 (1.15)	2.83 (1.47)	-1.15
好意性得点	2.00 (3.70)	-1.60 (2.97)	1.83 †	2.29 (2.36)	-1.33 (2.25)	2.81 *
影響性得点	5.25 (1.49)	4.40 (1.95)	0.89	6.29 (1.50)	4.33 (0.82)	2.84 *
攻撃性得点	6.38 (2.83)	3.40 (4.28)	1.52	7.00 (2.24)	9.33 (2.16)	-1.91 †
社会的コンピタンス得点	7.25 (3.85)	7.00 (3.54)	0.12	12.86 (5.34)	4.17 (2.93)	3.54 **
引っ込み思案得点	5.13 (3.64)	7.00 (1.58)	-1.08	6.43 (2.88)	11.33 (4.50)	-2.30 †
挑発的攻撃得点	2.00 (1.41)	1.80 (1.92)	0.22	2.86 (2.34)	3.67 (1.97)	-0.69
報復的攻撃得点	2.63 (1.51)	0.80 (0.84)	2.46 *	2.43 (1.27)	4.17 (1.72)	-2.09 †
制裁としての攻撃得点	2.00 (1.07)	1.60 (0.55)	0.77	3.57 (1.27)	2.67 (1.86)	1.04

注1) Leveneの等分散性の検定の結果、女児の肯定的指名得点及び引っ込み思案得点に関しては、分散の群間等質性が保証されなかったため、Welchの検定を用いた。

注2) ***p*<.01, **p*<.05, †*p*<.10 (両側検定)

社会的適応と諸測度との関連

幼児の社会的適応と、月齢、言語能力、社会的行動特徴、攻撃タイプとの関連を検討するために、男女別に相関係数を算出した (Table 2)。

Table 2 写真ソシオメトリック指名法による得点と諸測度間の相関係数

	男児 (<i>n</i> =13)				女児 (<i>n</i> =13)			
	肯定的 指名 得点	否定的 指名 得点	好意性 得点	影響性 得点	肯定的 指名 得点	否定的 指名 得点	好意性 得点	影響性 得点
月齢	.50 †	-.15	.34	.36	.69 **	-.37	.63 *	.54 †
語彙年齢	.23	-.39	.34	-.26	.73 **	-.52 †	.72 **	.47
攻撃性得点	-.04	.39	-.25	.48 †	-.50 †	.61 *	-.61 *	-.10
社会的コンピタンス得点	.42	-.62 *	.57 *	-.36	.84 **	-.51 †	.79 **	.60 *
引っ込み思案得点	-.41	.53 †	-.52 †	.24	-.55 †	.51 †	-.60 *	-.24
挑発的攻撃得点	.05	.10	-.03	.19	-.04	.32	-.17	.22
報復的攻撃得点	.05	.20	-.09	.32	-.18	.36	-.29	.09
制裁としての攻撃得点	.08	.23	-.12	.44	.44	-.31	.43	.28

注) ***p*<.01, **p*<.05, †*p*<.10 (両側検定)

なお、月齢と語彙年齢との関連について、男児では有意な相関はみられなかった ($r=.46, ns$) が、女児では正の相関がみられた ($r=.85, p<.01$)。月齢及び語彙年齢に関して、男児では、月齢と肯定的指名得点との間に正相関の有意傾向がみられたが、語彙年齢との間には有意な相関は認められなかった。一方、女児では、月齢及び語彙年齢と肯定的指名得点、好意性得点との間に有意な正相関がみられた。さらに、月齢と影響性得点との間に正相関の有意傾向が、語彙年齢と否定的指名得点との間に負相関の有意傾向がみられた。

社会的行動特徴に関して、男児では、攻撃性得点と影響性得点の間に正相関の有意傾向がみられた。また、社会的コンピタンス得点は、否定的指名得点との間に有意な負相関を、好意性得点との間に有意な正相関を示した。さらに、引っ込み思案得点は、否定的指名得点との間に正相関の有意傾向を、好意性得点との間に負相関の有意傾向を示した。

一方、女児では、攻撃性得点は、否定的指名得点との間に有意な正相関を、好意性得点との間に有意な負相関を、肯定的指名得点との間に負相関の有意傾向を示した。また、社会的コンピタンス得点は、肯定的指名得点、好意性得点、影響性得点との間に有意な正相関を、否定的指名得点との間に負相関の有意傾向を示した。さらに、引っ込み思案得点は、好意性得点との間に有意な負相関を、肯定的指名得点との間に負相関の有意傾向を、否定的指名得点との間に正相関の有意傾向を示した。

攻撃タイプに関しては、男女ともに、社会的適応に関する諸得点との間に、有意な相関はみられなかった。

月齢及び語彙年齢と社会的行動特徴

幼児の月齢、言語能力と社会的行動特徴との関連を検討するために、男女別に相関係数を算出した (Table 3)。

Table 3 月齢及び語彙年齢と写真仲間アセスメントによる得点との相関係数

	男児 (n=13)		女児 (n=13)	
	月齢	語彙年齢	月齢	語彙年齢
攻撃性得点	.49 †	.13	-.58 *	-.50 †
社会的コンピタンス得点	-.19	.11	.68 **	.60 *
引っ込み思案得点	-.28	-.64 *	-.46	-.32

注) ** $p<.01$, * $p<.05$, † $p<.10$ (両側検定)

男児では、語彙年齢と引っ込み思案得点との間に有意な負相関がみられた。また、月齢と攻撃性得点との間に正相関の有意傾向がみられた。一方、女児では、月齢と攻撃性得点との間に有意な負相関がみられ、語彙年齢と攻撃性得点の間にも負相関の有意傾向がみられた。さらに、月齢及び語彙年齢と社会的コンピタンス得点との間に有意な正相関がみられた。

攻撃タイプと諸測度との関連

幼児の攻撃タイプと諸測度との関連を検討するために、男女別に相関係数を算出した (Table 4)。月齢及び語彙年齢に関して、男児では、報復的攻撃得点と月齢との間に有意な正相関がみられた。

一方、女兒では、挑発的攻撃得点と語彙年齢との間に有意な負相関がみられた。社会的行動特徴に関して、男児では、挑発的攻撃及び報復的攻撃と攻撃性得点との間に正相関の有意傾向がみられた。女兒では、報復的攻撃と攻撃性得点及び引っ込み思案得点との間に正相関の有意傾向がみられた。

Table 4 攻撃タイプと諸測定との相関係数

	男児 (n=13)			女兒 (n=13)		
	挑発的 攻撃 得点	報復的 攻撃 得点	制裁とし ての攻撃 得点	挑発的 攻撃 得点	報復的 攻撃 得点	制裁とし ての攻撃 得点
月齢	.02	.58 *	.17	-.38	-.20	.36
語彙年齢	-.15	.26	-.14	-.56 *	-.14	.41
攻撃性得点	.51 †	.54 †	.32	.16	.48 †	-.33
社会的コンピタンス得点	-.21	-.33	-.28	.06	-.24	.43
引っ込み思案得点	.07	.29	.47	-.13	.50 †	-.30

注) * $p < .05$, † $p < .10$ (両側検定)

考 察

本研究の主な目的は、異年齢集団における幼児の社会的適応に影響を及ぼす諸要因を明らかにすること(目的1)と、幼児が示す攻撃のタイプと仲間から受ける評価との関連について検討を行うこと(目的2)であった。

目的1に関して、女兒では、月齢及び語彙年齢の低い者ほど、①仲間から、攻撃性が高く、社会的コンピタンスが不足していると評価されており(Table 1及びTable 3)、②受容されにくく、拒否されやすいことが明らかとなった(Table 1及びTable 2)。女兒に関しては、本研究の予想と概ね一致する結果となった。

しかしながら、男児に関して、月齢の低い者ほど仲間から受容されにくいという点は女兒と同様であったが、他は予想と一致しない点が多くあった。まず、社会的コンピタンスに関して、不足している者ほど、受容されにくく、拒否されやすいという点(Table 2)は予想通りであったが、月齢及び語彙年齢との間に明確な関連はみられなかった(Table 3)。男児では、月齢と語彙年齢の間にも相関がみられなかったことを考慮すると、男児では女兒に比して語彙の発達差が小さいか、あるいは男児の社会的コンピタンスは女兒の場合ほど月齢や言語能力に依存しない可能性が示唆される。

社会的コンピタンスに関しては、前田・片岡(1993)が、仲間受容と仲間拒否の両方に関連する行動次元であることを明らかにしている。本研究も、男女ともに同様の結果となった(Table 2)。しかしながら、月齢の低い男児が肯定的指名を受けにくいという点に関しては、単に社会的コンピタンスが不足しているという理由によるものではないといえる。Table 1から分かるように、男児の月齢低群と月齢高群は肯定的指名得点では有意に異なっているが、社会的コンピタンスでは差がないからである。むしろ、男児の月齢低群と月齢高群は報復的攻撃得点に有意差があり、月齢低群の方が報復的攻撃が少ないと評価されていた。同様に、月齢の低い男児ほど攻撃性が低いと評価される傾向にあった(Table 3)。これらの結果を考慮すると、月齢の低い男児は攻撃性が低く、月齢の高い

仲間から攻撃された場合にも報復的に攻撃しないために、男児の異年齢集団の中では存在感が少ないのかもしれない。男児の攻撃性得点は、肯定的指名得点だけでなく、仲間からの否定的な評価である否定的指名得点とも明確な相関を示していないが、影響性得点との間には正相関の有意傾向を示している (Table 2)。前田・片岡 (1993) は、仲間から積極的に好かれている幼児の中にも攻撃性を示す者が含まれていることを示唆しているが、それは同年齢集団の場合である。異年齢集団の場合には、低年齢の男児は高年齢の男児よりも身体的・腕力的に劣るので、攻撃性を発揮することが少なく、その結果として集団内における存在感や影響力が小さくなり、肯定的指名を受けることも少なくなるのではないかと考えられる。

目的 2 に関しては、男女ともに、攻撃タイプと社会的適応との関連について、有意な相関はみられなかった (Table 2)。その理由として、アセスメントの項目数が少なかったこと、対象者数が少なかったことなどがあげられる。参考までに、相関係数が .40 以上 (一般的には中程度の相関があると判定される; 田中・山際, 1992) となっている部分に着目すると、男児では、制裁としての攻撃を示す者ほど影響性得点が高く ($r=.44$)、女児では、制裁としての攻撃を示す者ほど肯定的指名得点 ($r=.44$) 及び好意性得点 ($r=.43$) が高くなっている。

また、Table 4 から、攻撃タイプと月齢、語彙年齢、社会的行動特徴との関連について以下のことが明らかとなった。男児において、攻撃性の高い者が示す攻撃タイプは、挑発的攻撃及び報復的攻撃である。また、報復的攻撃は特に月齢の高い者に認められる。一方、女児では、挑発的攻撃は語彙年齢の低い者に認められ、報復的攻撃は攻撃的かつ引っ込み思案な者に認められる。

攻撃タイプに関しては、断定的に結論を下すことはできないが、以下のことが推測される。男児では、月齢の高い者が報復的攻撃を示すことが多いが、挑発的攻撃及び報復的攻撃は、必ずしも仲間拒否につながらない。さらに、制裁としての攻撃は、敵味方の多い、社会的影響力の強い男児の行動特徴である (Table 2)。一方、女児では、挑発的攻撃及び報復的攻撃が、幼く言語能力や社会的行動に未熟な面のある者に認められる攻撃タイプである (Table 4) のに対して、制裁としての攻撃は、仲間から受容されている者に認められる攻撃タイプである (Table 2)。

本研究から、異年齢保育においては、低年齢児 (特に女児) の社会的適応に配慮する必要があるといえる。また、攻撃タイプに関して、社会的適応に及ぼす影響がタイプ間で異なる可能性、さらには性差がある可能性が示唆された。しかしながら、攻撃タイプに関しては、調査の実施方法を改善し、改めて検証する必要がある。

引用文献

- 相川 充 1999 社会的スキル 中島義明・安藤清志・子安増生・坂野雄二・繁樹算男・立花政夫・箱田裕司 (編) 心理学辞典 有斐閣 Pp.370-371.
- Coie, J. D., & Kupersmidt, J. B. 1983 A behavioral analysis of emerging social status in boys' groups. *Child Development*, **54**, 1400-1416.
- Dodge, K. A. 1983 Behavioral antecedents of peer social status. *Child Development*, **54**, 1386-1399.
- 越中康治 投稿中 挑発, 報復, 制裁としての攻撃に対する幼児の善悪判断 教育心理学研究

- 後藤宗理 1998 子どもに学ぶ発達心理学 樹村房
- Lesser, G. S. 1959 The relationship between various forms of aggression and popularity among lower-class children. *Journal of Educational Psychology*, **50**, 20-25.
- 前田健一 1995 仲間から拒否される子どもの孤独感と社会的行動特徴に関する短期縦断的研究
教育心理学研究, **43**, 256-265.
- 前田健一 1998 子どもの孤独感と行動特徴の変化に関する縦断的研究—ソシオメトリック地位維持群と地位変動群の比較— 教育心理学研究, **46**, 377-386.
- 前田健一・片岡美菜子 1993 幼児の社会的地位と社会的行動特徴に関する仲間・実習生・教師アセスメント 教育心理学研究, **41**, 152-160.
- 中台佐喜子・金山元春・前田健一 2002 幼児の仲間集団における人気度と社会的スキル—同性仲間と異性仲間からの評価— 広島大学心理学研究, **2**, 151-157.
- 田中 敏・山際勇一郎 1992 新訂ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法 教育出版
- 田代和美 2000 縦割り保育 森上史朗・柏女壺峰(編) 保育用語辞典 ミネルヴァ書房 Pp.99-100.
- 上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎 1991a 絵画語り発達検査〔1991年修正版〕 日本文化科学社
- 上野一彦・撫尾知信・飯長喜一郎 1991b 絵画語り発達検査手引〔1991年修正版〕 日本文化科学社

謝 辞

本研究にご協力を賜りました東広島商事(株)みづき保育園園長馬越英美子先生, 保育士の皆様, 園児の皆様に深く感謝申し上げます。